

SCOUTING



2022
No.751
9

特集

第18回

日本スカウト ジャンボリー記念号

CONTENTS

02 第18回日本スカウトジャンボリー

04 分散開催

06 北から南から

12 ジャンボリー大集会

16 プログラム

19 プロモーション

20 代表スカウトキャンプ

21 秋篠宮皇嗣殿下お言葉

22 2022年度 スカウトの日
～プラごみバスターズ大作戦～

24 企業や団体とのタイアップによるコラボレーションバッジ
カブスカウト対象 “新チャレンジ章”

25 全国防災キャラバン

26 体験活動推進元年 一この機会を活かして!

27 難民支援衣料回収プロジェクト

27 大和証券グループ120周年記念こどもの未来プロジェクト
ボーイスカウトへの寄付金 贈呈式

28 野外活動のための安心・安全講座
「そなえよつねに共済」とは?

28 信仰奨励

29 日本連盟創立100周年

30 維持会員

31 スカウトショップ

18th NIPPON SCOUT JAMBOREE ALL OVER JAPAN

100+ f ~自分のfを探せ~



第18回日本スカウトジャンボリー開催を振り返って

日本連盟創立100周年記念大会として、第18回日本スカウトジャンボリーを多くの関係者のご尽力によりコロナ禍を乗り越えて開催することができました。

中央会場は8月5日～10日に東京で、サテライト会場は、8月4日～9日に埼玉県秩父ミュージックパークと熊本県あしきた青少年の家で実施しました。そして、この期間を中心にジャンボリーサマー2022として、夏休み期間中に全国250会場で14,000人のスカウトたちが「100+f～自分のfを探せ～」をテーマとし、感染症、熱中症対策を行いながら「分散開催」のジャンボリーを展開しました。

今回のジャンボリーは100周年記念という意味もあり、当初の企画段階では、日本中が、いや世界中が注目する東京2020オリンピック競技大会の開催跡地を利用して、「future 未来に向かっていく」スカウトたちの活動を、ビルの森の中、コンパスを使い道を進むパトローリングの姿を見られることを想像していました。

しかし、2019年暮れから始まった新型コロナウイルスの感染は、瞬間にパンデミックとなり、東京五輪が1年延期となり、ジャンボリー会場の予定地も当初計画での準備や使用ができなくなりました。

大会実行委員会はもとより日本連盟理事会でも検討を重ね、第18回の開催年や会場を仕切り直すか熟慮しました。しかし、4年に一度のジャンボリーは、スカウトたちの憧れであり、特別な想いです。日頃の班や隊活動を通じ、班長を中心として班員たちが積極的に知恵と力

を出し合い、他の班と競いながら、チームワークを発揮する絶好の機会を無にするわけにいかないとの思いで実行委員会は知恵を絞り「分散開催」を決定しました。

「分散開催」ではありませんが、各方面からの協力者のご尽力により、距離が離れていてもネットワークで繋ぐことで、他会場で頑張っているスカウト同士の姿を身近に感じ、一体感を味わえたかと思います。このような体験により、きっと、大会テーマの「100+f」から、「未来(future)」、「友だち(friend)」、「家族(family)」といったキーワードを探ることができたのではないのでしょうか。

それぞれの隊においても、創意工夫してジャンボリーサマー会場を設定し、「ジャンボリー日本一プログラム」の提供にご協力いただきました。

8月7日のジャンボリー大集会では、全国をネットで繋ぎ、大集会会場に秋篠宮皇嗣同妃両殿下をお迎えすることができました。秋篠宮皇嗣殿下からは、スカウトたちに心温まるメッセージをいただきました。

このような形での開催に、参加したスカウトたちは、それぞれの場所での「第18回の夏」となりましたが、日本連盟100年の歴史の中で、皆の記憶に残る大会となったことでしょう。実行委員会の方々をはじめスカウトのためにご奉仕いただいた指導者の皆さまに感謝いたします。

弥栄

100周年記念事業実行委員長 / 日本連盟専務理事
佐野 友保

指導者の皆様、県連盟・地区、日本連盟大会関係者の皆様、本当にお疲れさまでした。

従来にない分散型、期間を定めて各地で開催されるという、従来とは全く違う方式によるものとなり、スカウト、指導者をはじめブロック、県連盟関係の皆様には戸惑いや混乱が多々あったことと存じます。

さらには新型コロナウイルス感染症の第7波ともいえる全国的な流行の最中となってしまったことは、さらにスカウト保護者、関係者並びに大会関係者の皆様にご負担をおかけする結果となったことと存じます。

皆様の努力により多数の会場でのキャンプの実施ができたこと、寸前まで開催が危ぶまれたジャンボリー大集会については、秋篠宮皇嗣同妃両殿下をはじめ多数のご来賓をお迎えした中で、会場に集まったスカウトたち、サテライト会場をはじめ全国の県連盟、地区、団の分散会場で頑張っているスカウトたちの姿をお見せできたこと、そして彼らスカウトたちの力で立派に運営できたことは大変よかったと思います。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、いくつかのサテライト会場での開催が中止になりました。大変残念ではありますが、これも一つの選択肢であり、勇気

ある撤退として今後の教訓にすることが重要だと思います。

私がいちいち感じたのは、サテライト会場での行事は中止になったが、団や地区でこれらをカバーするキャンプを急遽設定し、少人数で感染防止策をとり、キャンプを実施されたスカウト諸君が多数おられたということを目にしたことです。これもまた、スカウトらしい粘り強い行動と感じました。

多くのスカウトが一つの会場に集い、日ごろの技を競い、友情を確かめ合う従来のスカウトジャンボリーが開催できなかったことは残念ではありますが、いつもの仲間、指導者たちと少し違う形でのスカウトジャンボリーを体験できたことを新たな観点から評価していただき、明日からのスカウト運動への糧としていただければ幸いです。

最後になりましたが、第18回日本スカウトジャンボリーにご参加いただいた皆様、参加スカウトをお支えいただいた団、隊の指導者、県連盟・地区関係者の皆様、日本連盟関係者並びにスポンサー等陰になり日向になりご支援をいただいた皆様に深く感謝いたしますとともに敬意を表します。

総コミッショナー
村田 禎章

18th NIPPON SCOUT JAMBOREE ALL OVER JAPAN



ボーイスカウト日本連盟100周年記念の 日本スカウトジャンボリー

1956(昭和31)年に長野県軽井沢で開催した第1回日本ジャンボリーから66年、17回の歴史を経て、2022(令和4)年夏、第18回日本スカウトジャンボリーを史上初の全国分散開催という形で実施しました。

日本連盟100周年記念事業として「100+f~自分のfを探せ~」をテーマに東京都内での集合開催を企画準備していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大による行動制限などの事由から、リスクを最小限に抑えるために、政府の基本対処方針に基づく万全の対応が施せる規模での地域開催を全国の都道府県連盟にお願いし、さらに地区や隊の単位で夏休み期間中に何時でも参加できるジャンボリーサマー2022の機会を提供することで、全国14,000人が登録する「ALL OVER JAPAN」の大会を全国250を超える会場で展開しました。

開催直前の7月には全国的に新型コロナウイルス感染者数が急増しましたが、複数の会場において大会規模の変更や、ジャンボリーサマー2022への移行など、さまざまな工夫と関係者のご尽力により、多くのスカウトが第18回日本スカウトジャンボリーに参加する機会を得られたことを、全国47都道府県連盟をはじめご協力いただいた関係各位に改めて感謝するものであります。

第18回日本スカウトジャンボリーが分散開催になったことから、オ

ンラインアプリを活用した「スカウト同士のつながり」や、全国と相互に中継をつなぐ「ジャンボリー大集会」、夏休み期間中を通じてスカウトスキルを競い合う「ジャンボリー日本一プログラム」などネットワークを活用しました。その一方、全国すべての県連盟から1級スカウトを募り実施する「代表スカウトキャンプ」や、複数の県連盟が集う「サテライト会場」の設置など、新型コロナウイルス感染症拡大により停滞したスカウトキャンプの再興に向けての展開が為されました。

また、第18回日本スカウトジャンボリーでは、スカウトにとって大会が単なるイベント参加に止まらぬよう、提供するさまざまなプログラムにおいて総コミッショナーのもと、全国のコミッショナーおよびスカウト指導者に、準備期間よりスカウトの指導にあたっていただいたことに心より感謝いたします。

ジャンボリーの熱い夏は過ぎましたが、私たちスカウトは現在の困難な状況の中でも「そなえよつねに」を忘れず、笑顔を絶やさず健康な生活を送り、来る第19回日本スカウトジャンボリーでの再会に向け、ボーイスカウト日本連盟100周年の節目を超え、勇往邁進していきましょう。

第18回日本スカウトジャンボリー実行委員長
白川 雅之



「ONE DAY JAMBOREE IN 東扇島」でのパフォーマンス

5県連盟が準備を進めた サテライト会場

サテライト会場を設置し、分散開催となった今回のジャンボリー。宮城、茨城、埼玉、神奈川、熊本の5県連盟の協力を得て、全てのサテライト会場で他県連盟のスカウトや運営スタッフを受け入れ、県連盟の枠を飛び越えた交歓行事なども多く予定されていました。しかし、折からの第7波の影響で、宮城、茨城、神奈川の3会場、サテライト設置の中止を余儀なくされました。

会場	開催日	開催状況
宮城・国立花山青少年自然の家南蔵王野営場	8月5日～10日	中止
茨城・高萩スカウトフィールド	8月5日～10日	中止
埼玉・秩父ミュージックパーク	8月4日～9日	
神奈川・川崎市東扇島東公園	8月5日～10日	中止
熊本・県立あしきた青少年の家	8月4日～9日	



九州各地からスカウトが参加した熊本サテライト会場。8月7日のジャンボリー大集会には中継で参加し、チームワークの良さを見せてくれた。

予定どおり実施することができた埼玉サテライト会場では、進級課目と関連させて参加したスカウトの進歩促進につながるプログラムや、秩父の山を存分に活用したハイキングなどのプログラムが数多く用意されていました。また、熊本サテライト会場では、必須プログラムの「水俣病の公害学習」のほか、ペーロン漕艇や流木ウッドクラフトなど海のプログラムがたくさん用意されており、両サテライトとも、会場内外にスカウトの笑顔と歓声が広がっていたとのことでした。

残念ながら、中止となったサテライト設置県連盟では、直前の決定にも関わらず、「なんとかスカウトに夏のプログラムを！」という隊指導者や、「じゃあ、私たちが自分で夏のプログラムを考える！」というスカウトが、隊キャンプなどジャンボリーサマー2022の計画をしている姿が見られたのがとても印象的でした。

会場統括部 部長
木村 寿宏

北から南から

各地のキャンプライフ

全国各地で分散開催となった今回のジャンボリー。各県連盟から届けられた、各地の様子をお伝えします。



1 北海道・東北ブロック

雄大な自然の中で繰り広げられる各地のジャンボリーサマー 2022。宮城サテライト会場は中止を余儀なくされたが、急きょ札幌から大集会へ中継を行うなど、北海道・東北の仲間たちの姿に勇気づけられた。全国のスカウトたちもきっと同じ星空を眺めていたことだろう。



2 関東ブロック

多くの参加者が集った埼玉サテライト会場。八王子、大田2拠点で展開された中央会場。神奈川サテライト会場は止む無く中止となったが、スカウトのために何かできないかと、1日限りの「ONE DAY JAMBOREE IN 東扇島」が急ぎょ開催された。それぞれの形で迎えたジャンボリーから、スカウトたちは何を学んだのだろうか。



3 中部ブロック

各地域で、その土地の特色を活かしたプログラムが行われた。自然に親しむ時間が、スカウトたちを一回りも二回りも大きくしてくれる。自分たちで考え行動したひときは、何ものにも代えがたい経験になったことだろう。





4 近畿ブロック

荒天に見舞われたことも一つの思い出。たとえ一堂に会することができなくても、一緒に活動できる喜びを知ることができたのは、さまざまな状況乗り越えてきたスカウトだからこそ。彼ら、彼女たちなら、画面越しのスカウトとも繋がりを覚えることができたのではないだろうか。



5 中国・四国ブロック

学ぶときは真剣そのもの、そして活動するときは思いっきり。メリハリのある活動で今回のジャンボリーへ全力で打ち込んだ経験は、スカウトたちをきっと大きく飛躍させてくれたことだろう。





6 九州・沖縄ブロック

海のアクティビティーを楽しんだ熊本サテライト会場。地域の特色を活かしたプログラム展開は、分散開催となった今回のジャンボリーの特徴の一つとなった。急きょ参加できなくなった県連盟があったものの、会場に集合できたスカウトたちは、仲間に思いを馳せて今回のジャンボリーに臨んだ。またいつか皆で会える日を心待ちにしたい。

ジャンボリー 大集会

「つながれ！ぼくらのジャンボリー！」をテーマに、東京都大田区総合体育館で開催したジャンボリー大集会。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、全国各地でそれぞれサテライト会場やジャンボリーサマー 2022 の開催中止を余儀なくされた県連盟がある中、それでもキャンプをしている仲間との中継を行いながら、YouTube による生配信を全国のスカウトが視聴して「つながり」を実現しました。

秋篠宮皇嗣同妃両殿下のご臨席を賜り、会場では「さまざまな制限があることと思いますが、皆様には、ぜひ多くの活動に参加し、スカウト同士の交流を深めるとともに、お互いに協力をしながら、貴重な思い出を作っていたいただきたいと思います」というお言葉を頂戴しました。

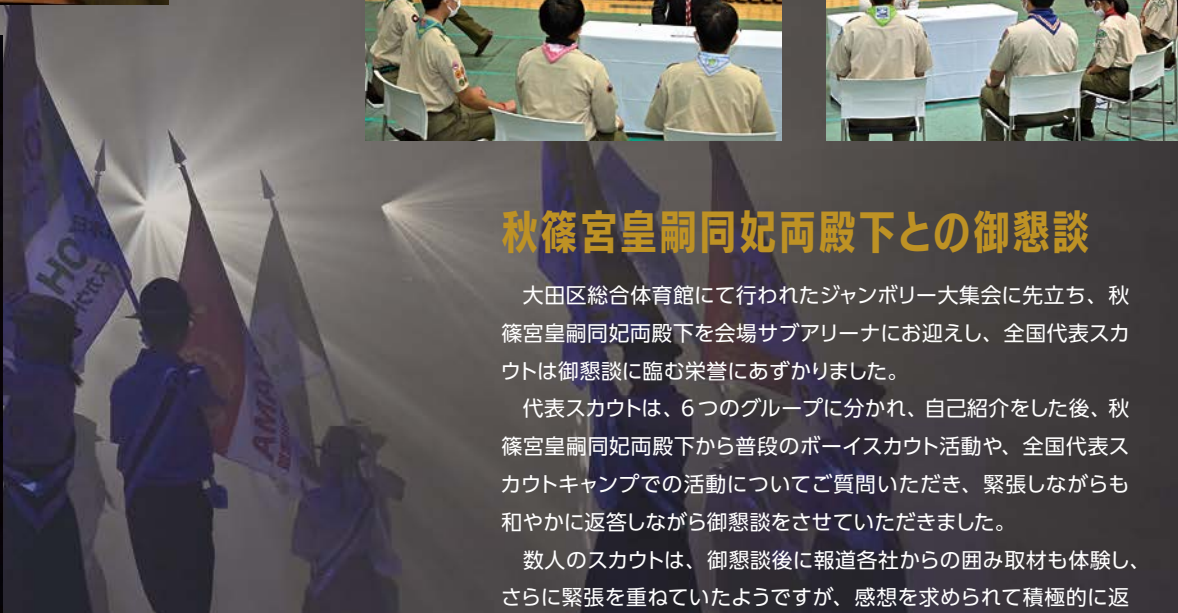
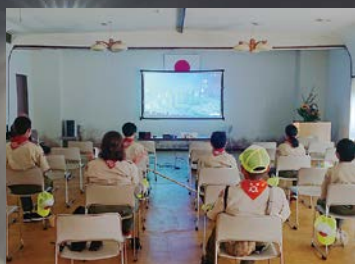
開催時間前のプロローグでは、ガールスカウトご出身の小池百合子東京都知事からもごあいさつをいただき、会場は大いに盛り上がりを見せました。オープニングでは、これまでのジャンボリー大集会でおなじみの「横浜カラーチーム」と「静岡トランペット鼓隊」による洗練された演技が披露されました。会場は2021年に開催された東京オリンピックの開閉会式を彷彿させるプロジェクションマッピングやムービングライトで彩り、パフォーマンスのスペースを最大限に活かせる演出としました。締めくくりは、中高生に TikTok で大人気の女性6人組アイドルグループ「超ときめき♡宣伝部」によるゲストライブで、全国のスカウトにとときめきを届けてくれました。最後に100周年記念ソング「ボーイスカウト～いま 高き峰へ～」を会場にいる参加者とともに合唱して最高の時間を共有できました。

大集會部 部長
井沢 啓一









秋篠宮皇嗣同妃両殿下との御懇談

大田区総合体育館にて行われたジャンボリー大集会に先立ち、秋篠宮皇嗣同妃両殿下を会場サブアリーナにお迎えし、全国代表スカウトは御懇談に臨む栄誉にあずかりました。

代表スカウトは、6つのグループに分かれ、自己紹介をした後、秋篠宮皇嗣同妃両殿下から普段のボーイスカウト活動や、全国代表スカウトキャンプでの活動についてご質問いただき、緊張しながらも和やかに返答しながら御懇談をさせていただきました。

数人のスカウトは、御懇談後に報道各社からの囲み取材も体験し、さらに緊張を重ねていたようですが、感想を求められて積極的に返答していました。

この体験により代表スカウトたちの意識も高まり、「活動的で自立したスカウトを育てる」ことを目指している大会にふさわしい御懇談となり、今後の彼らの活躍に期待しています。

運営本部 部長
榎原 孝治





第18回日本スカウトジャンボリー プログラム

中央会場やサテライト会場の開始に先立ち、7月20日からジャンボリーサマー 2022がスタートしました。一部のサテライト会場が新型コロナウイルス感染症の影響で中止せざるを得ない状況となりましたが、全国において、隊のキャンプや活動の中で、ジャンボリーのプログラムが展開されました。

今回のジャンボリーは、共通プログラムとサテライトプログラムで構成されています。

「ジャンボリー日本一プログラム」の取り組み

ジャンボリー日本一プログラムでは、“わが旗かざし「班旗立て」”、“火を絶やすな「火起こし」”、“ジョン・プラン「手旗信号リレー」”の3つのプログラムを設定。全国各地で同じルールでプログラムを展開し、Webで記録を報告することにより、日々順位が更新されました。各プログラムにチャレンジした班数、スカウト数は次のとおりです。

プログラム名	参加班数 [延べ数]	参加スカウト数 [延べ数]
わが旗かざし「班旗立て」	529個班	3,013人
火を絶やすな「火起こし」	350個班	1,955人
ジョン・プラン「手旗信号リレー」	157個班	947人

※ 2022年8月31日時点

ジャンボリー日本一プログラムは、8月31日までに報告された記録をもとに「ジャンボリー日本一記章」を授与します。9月1日以降は、「スカウト スキル チャレンジ」として継続し、報告をWebで受け付け、記録、順位を公開します。なお、9月1日以降の記録は「ジャンボリー日本一記章」授与の対象にはなりません。

ジャンボリー大集会で、全国各地のスカウトからジャンボリー日本一プログラムにチャレンジしたいという声をたくさんいただきました。9月1日以降も多くのスカウトがチャレンジし、スカウト技能を磨いてほしいと思います。



18NSJ わが旗かざし 班旗立て

- 1位 大阪連盟 豊中第22団 イーグル/ウルフ合同班
- 2位 東京連盟 足立第5団 オオカミ班
- 3位 東京連盟 足立第5団 ハヤブサ班



18NSJ 火を絶やすな

火起こし

- 1位 大阪連盟 吹田第4団 虎班
- 2位 神奈川連盟 横浜第82団 イーグル班
- 3位 福岡県連盟 福岡第4団 シロクマ班

18NSJ ジョン・プラン

手旗信号リレー

- 1位 奈良県連盟 きたやまと地区合同1隊 オオカミ班
- 2位 東京連盟 足立第5団 オオカミ班
- 3位 奈良県連盟 生第駒2団 鷹班

「信仰奨励」プログラム

多くの教宗派の皆さまにご協力いただき、Web サイトを通して信仰心を深めること、信仰について理解を深めることができました。また、各サテライト会場や隊のキャンプでスカウト・OWN・サービスを実施し、心や気持ちを静め、「平和」や「豊かさ」について考える時間をもちました。



「SDGs」プログラム

「プラごみバスターズ大作戦」の取り組みを始め、協力企業の皆さまにご協力いただき SDGs プログラムを展開しました。17の目標、取り組みについて仲間と相談し、スカウトとしてこれからの行動を定められたことと思います。SDGs プログラムは、国際的な視野で個々の行動を考え、取り組むことが大切です。



上記以外にも、野営生活プログラム、交流プログラム、奉仕・社会貢献プログラムについて取り組みました。活動の様子は18NSJ特設 Web サイトやアプリの「News&Info」で知ることができます。

班の最高のチームワークを発揮することをテーマに、さまざまなプログラムを設定しました。プログラムを通して互いを知り、助け

合い、友情を深めることができましたでしょうか。この夏に体験した多くのことを、これからのスカウト活動に活かしていくことを期待しています。

プログラム部 部長
村山 大介

18NSJのプロモーション

分散開催となった今回の大会では、いかにスカウトたちの心を「つなぐ」かが大きな課題となりました。それを実現するために、

- 皆で同じアイテムを身につける（記念品開発）
- 離れた場所のスカウト同士で競い合う、やり取りができるようにする（ICTの活用）
- 広く社会からの支援を取り付ける（報道・企業連携）

など、さまざまな方面に向けた「プロモーション活動」を展開することとなったのです。

その中で最も身近なものが、18NSJ 特設 Web サイト・アプリの運営です。プログラムなど各種情報のデータベースとなったほか、250を超える会場のマップ表示、記念ソングの再生、友情ゲームなど、「手のひらの中に18NSJを」と推し進めました。中でも、News&Info 機能は、いわば「すべての参加者がスカウト通信員」となることを目指し、実行委員会発の情報だけでなく、各開催地からの「ナマの声」を全国に届けることを実現しました。



第18回日本スカウトジャンボリー 特設 Web サイト



公式アプリ

また、今回は「分散開催」であるため、公式記録を得るために写真・映像撮影スタッフの登録を全国の加盟員にご協力いただきました。合計160人にご賛同いただき、全国で分散開催された18NSJの足跡をしっかりと残すことができました。加えて、各地での開催にあたり、地元メディアへの対応を進める報道対応スタッフも、合計44人にご協力いただき、各地の地元メディアなどからの取材、広報の実現にご尽力いただきました。加えて、実行委員会からは計5回の報道発表を実施し、のべ58のメディアに掲載されました。



記念グッズについては、計20アイテムを制作しました。今回の大会シンボルマークは六角形という展開の幅が非常に広いデザインであり、日本連盟商品開発小委員会との協働でいままでにない斬新なグッズを企画・販売することができました。

そして、ジャンボリー大集会の生配信（YouTube）。北海道から沖縄まで7会場との生中継に愛知・岡山からのビデオメッセージ上映を加えた、テレビ特番さながらの構成となりましたが、これが「いま」のスカウトの気持ちをつなげる道であると奮起し、トラブルなく秒単位の進行をつつがなく進めることができました。

8月末現在で、再生回数はおおよそ30,000回となっています。

最後に、社会からの支援について。「分散型の開催」という企業側にメリットを共有しにくい事業展開に関わらず、スカウト運動の隆盛への期待から熱い応援をいただきました。

ゴールドスポンサーは計5社、さらにオフィシャルサプライヤーとして5社からご支援をいただくことができました（詳細は巻末ページをご参照ください）。

プロモーション部 部長
澤 朋宏

全国代表スカウトキャンプ

100周年を記念する大会の県連盟代表として、日向会場に14県連盟スカウト28人指導者6人、秩父会場に14県連盟スカウト24人指導者9人が集いました。キャンプ生活と、ジャンボリー大集会への参加を通じた日本スカウトジャンボリーの経験を各地に持ち帰り、全国大会の意義を共有することを目的として実施しました。また、ジャンボリー大集会への参加スカウト2県連盟4人を含め、合計30県連盟の代表スカウトが一堂に会する機会となりました。



■ 全国代表スカウトキャンプ行動全日程

日数	日程	主な行事	宿泊
第1日	8月4日(木)	参加者集合・開会式	大田・舎営
第2日	8月5日(金)	移動・設営・プログラム	大田 → 会場(移動)・野営
第3日	8月6日(土)	プログラム	会場・野営
第4日	8月7日(日)	移動・ジャンボリー大集会	大田(日帰り)・野営
第5日	8月8日(月)	プログラム	会場・野営
第6日	8月9日(火)	プログラム・撤営・移動	会場 → 大田・舎営
第7日	8月10日(水)	閉会式・参加者解散	大田

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催会場を2か所に分散しました。東京連盟と埼玉県連盟の方々には、準備段階から多大なるご協力をいただきました。



開会式

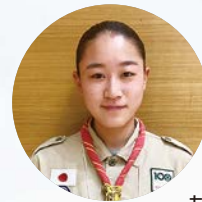
参加スカウトは、県コミッショナーの推薦を受けた1級スカウト以上であることを条件とし、同程度のスカウトスキルをもった軌を一にするスカウトで隊活動を展開することで、相互に刺激し合い自身の向上につながったようです。6泊7日のキャンプでスカウト諸君が、新たな仲間とともに達成感を感じ、自信に満ちた表情を浮かべてキャンプアウトしました。

次回、第19回日本スカウトジャンボリーに指導者として参加したいとのスカウトの感想を聞き、代表スカウトキャンプに関わっていただいた隊指導者の方々が、丁寧にスカウトへ接していただいた賜物と感じました。

今回のジャンボリーが全国で分散開催している中で、各県連盟代表スカウトたちは、全国の仲間とともに「100+f～自分のfを探せ～」をこの代表スカウトキャンプで実践したのではないのでしょうか。

運営本部 部長
榎原 孝治

■ 参加スカウトのコメント



群馬県連盟 大泉第5団
根岸 樹里さん

今回、18NSJに群馬県代表として参加できたことをとても嬉しく思っています。私は今回のジャンボリーが初めてで不安でいっぱいでしたが、全国各地のスカウトやリーダーと交流するのはとても新鮮で、一生忘れられない思い出になりました。またジャンボリー大集会では、秋篠宮皇嗣同妃両殿下とお話することができたり、全国の会場とリモートで繋がったりして、本当にボーイスカウトを続けていてよかったと実感しました。今回のジャンボリーで味わった感動や経験を忘れずに、これからの活動に活かしたいと思います。本当にありがとうございました。



愛知県連盟 日進第1団
眞野 陽斗さん

愛知県代表として18NSJに参加させていただきました。初めは他県連盟のスカウトと仲良くなれるか不安で、開会式はとても緊張しました。僕たちの班はあまり話さず、このまま話さないで終わると思うほどでした。しかし、面白くて優しい隊長と上級班長のおかげで、すべての班のわだかまりがなくなるのを感じ、「また行きたい!」と思いました。

今回のジャンボリーでは、県によってボーイスカウト活動もさまざまで、たくさんの発見がありました。ジャンボリーで培った技能を自分の団に持ち帰ることが大切だと思いました。



秋篠宮皇嗣殿下との御懇談の様子

第18回日本スカウトジャンボリー 秋篠宮皇嗣殿下お言葉

令和4年8月7日(日)

はじめに、今月はじめ、大雨特別警報が発令された山形県や新潟県を中心に、多くの被害が生まれました。このことにより、身近に被災した方のいる参加者もおられることと思います。ここに、心からお見舞いを申し上げます。

ボーイスカウト日本連盟が1922年に創立されてから100年を迎える本年、その記念大会となる「第18回日本スカウトジャンボリー」が「100+f～自分のfを探せ～」の大会テーマの下に開催され、本日ここに集われている皆様と大集会に出席できましたことを大変嬉しく思います。

以前は日本ジャンボリーと称されていた日本スカウトジャンボリーは、おおむね4年に1度開催される国内のボーイスカウト最大の祭典です。そして、皆様にとっては1度、多くても2度しか参加ができない大会であり、その意味でも大切な機会と申せましょう。

私自身は、折々に日本連盟が主催した会合に出席をしたことがありますが、ジャンボリーも1978年に静岡県御殿場市で開催された第7回大会に出席いたしました。おそらく、スカウト活動がどのようなものなのかを間近で見る機会を得たのは、その時が最初ではなかったかと思います。

このたびは、COVID-19の影響により、各地に分散している会場をオンラインで結んだり、期間を分散したりするなど、今まで行われた大会とは異なった形で開催し、そこに1



万人以上のスカウトが参加していると伺っております。新たな様式の大会で、全国の参加者が一体感を持って行う活動には、いろいろな点で対面とは違う難しさがあると思いますが、このような経験は、必ずや皆様の将来に役立つことと考えます。

また、先ほどは、都道府県連盟の代表スカウトの方々とお話し、ジャンボリーでの活動や日頃の活動の様子などを伺いました。スカウト活動への参加を通じて自らの成長を促し、将来、良き社会人となるために研鑽され、大会のさまざまな活動に積極的に、また、真剣

に取り組んでいる姿を頼もしく感じました。

今回は、さまざまな制限があると思いますが、皆様には、ぜひ多くの活動に参加し、スカウト同士の交流を深めるとともに、お互いに協力をしながら、貴重な思い出を作ってくださいと思います。そして、全国のスカウト活動がさらに活性化するよう、尽力をされることを期待しております。

おわりに、スカウト運動の一層の発展と、我が国、そして世界の青少年の健全な育成が図られることを祈念し、大集会に寄せる言葉といたします。

来賓紹介

文部科学副大臣、BS振興国会議員連盟、東京都知事、大田・品川区長、関連団体、スポンサー、協力企業など多くの来賓の方にご来場いただき、スカウトたちにメッセージをいただきました。



田中英之
文部科学副大臣(当時)



小池百合子
東京都知事



塩谷立
BS振興国会議員連盟 副会長

2022年度 スカウトの日 ～プラごみバスターズ大作戦～

実施期間：7月11日(月)～11月7日(月)

集中実施日：9月19日(月・祝)を基本として全国で実施



「スカウトの日」は、環境保全や環境美化をはじめ、さまざまな活動を全国各地で実施し、スカウト運動が地域社会に根差した実践活動であることを広く社会に知ってもらうことを目的としています。

日本連盟創立100周年の今年は、全国で放棄されるプラスチック「はぐれプラごみ」の調査・回収と、プラスチックの資源循環を体験する取り組みを加えて、全国で実施します。

今号では、これまでの取り組み経過のほか、集中実施日に向けた準備、そして今後の報告に向けた具体的な手順などをお伝えします。

■ プラごみバスターズ大作戦の 取り組み経過報告



プレイベントの開催

プラごみバスターズ大作戦のキックオフイベントを7月10日(日)に滋賀で開催しました。本事業の協賛元であるセブン-イレブン記念財団の森林保全プロジェクト「滋賀セブンの森」が琵琶湖岸で実施されることに伴い、県内に呼びかけを行い、スカウト・指導者・保護者147人(全体では452人：セブン-イレブン記念財団、セブン-イレブン・ジャパン、淡海を守る釣り人の会、滋賀県、守山市、他)が参加しました。

ビーバー・カブスカウトは、3.5kmの湖畔に渡り流れ着いたごみを回収し、ボーイ・ベンチャースカウトは、プラスチック、ペットボトル、不燃ごみなどに分別する作業を行いました。非常に多くのごみがある中、ペットボトル・プラスチックごみが特に目立ちました。

■ 活動の準備

(アプリ「ピリカ」のインストール、団専用グループのフォロー)

前号では、プラごみバスターズ大作戦の3つのアクションを紹介しました。その中の一つ「地域のはぐれプラごみを捕獲しよう」について、ぜひ皆さんの団でも取り組んでみてください。

スマートフォンアプリ「ピリカ」のインストール

世界中で利用される世界最大の環境アプリ「ピリカ」をインストールしましょう。個人で登録、利用することもできますが、まだスマートフォンを持っていないスカウトも、団や隊で取りまとめて報告することができます。まずは、利用するための準備をしてみましょう。

団専用グループのフォロー

日本連盟では、スカウトの日として環境保全活動を40年以上取り組んでいますが、活動の見える化、特に社会に対する発信が課題でした。今回、プラごみバスターズ大作戦では、全国1,800団の専用グループをピリカ内に作成し、スカウトや指導者のアカウントを自分の所属する団専用グループに登録することで、団の取り組みの見える化を実現します。以下のURL、QRコードから自団の専用グループを探してみてください。

<https://lne.st/eovr>



森林保全プロジェクト「滋賀セブンの森」は今回で6回目。過去最高となる参加者が集いました。



環境美化活動・清掃活動の実施

アプリ「ピリカ」の準備、団専用グループのフォローができれば、いよいよ自分たちの活動です。

毎年実施してきた「スカウトの日」の想いを引き継ぎ、自分たちのまち、社会、そして地球のためになる活動に挑戦してください。

すでに、自分たちの団や隊の活動日も活動する内容も決まっている団もあると思います。それに取り組んだうえで、環境のため、地球のために自分たちができることを一つでも二つでもスカウトが率先して活動してくれることを期待しています。



活動資材の発送

例年、活動資材は申請いただいた団に対してお送りしていますが、今年は日本連盟創立100周年の年であり、全ての団に活動資材を発送いたします。

6月末日時点での加盟登録情報を基に数量を調整し、全国各団の通信連絡先に、8月末から9月上旬にかけて順次お送りしています。

のぼり旗は、プラごみバスターズ大作戦と100周年記念の活動にてご活用ください。年代ごとの教育コンテンツには、普通の集会で使えるミニゲームやワークシートが含まれています。お送りする冊子を切って使ったり、特設サイト内のデータから印刷することもできます。ぜひ活用ください。



活動報告の受け付け

今年は、スカウトの日～プラごみバスターズ大作戦として、全国1,800全ての団に取り組みをお願いします。その成果を投稿してもらい、全国の団や地域社会に発信していきます。

投稿方法は、写真・動画共有 SNS「Instagram」、または日本連盟 Web サイト経由で受け付けます。スカウトの日・プラごみバスターズ大作戦の取り組みを見る化して、社会に届けましょう。

報告期間

2022年9月5日(月)～11月21日(月)まで

※全国の感染状況に応じて、活動の延期や中止の判断も含め、各団から報告をお願いします。

写真共有方法

- 活動中に撮影した写真を最大5点選んでください。
- SNS「Instagram」で、以下のハッシュタグをつけて投稿してください。
#スカウトの日2022
#プラごみバスターズ大作戦
- 取り組みの様子やその日の参加スカウトが話していたひとことを記載して投稿してください。

例 「地域の人にこんなコメントをもらいました」
「こういう活動ができた」
「こんなごみが多かった」
「自分たちが活動する街、社会をこんなふうになりたい」



確認事項

- 日本連盟の各種 SNS や広報物、実施報告書に写真とコメントの一部を使用します。
- 写真や投稿内容は、今年度の実施報告書のほか、環境展示会の報告で活用いたします。
- 写真やコメントを使用することに承諾したうえで投稿をお願いします。
- 例年通り、日本連盟 Web サイトの「活動報告フォーム」でも報告を受け付けています。

プラごみバスターズ大作戦特設サイト

スカウト向けのミッション動画や、指導者の方にご覧いただきたい、プラごみバスターズ大作戦の説明動画を日本連盟 Youtube で公開し、特設サイトからご覧いただけます。

全国での取り組み事例をニュースとしてご紹介しています。コンテンツと合わせて各団の活動の様子をぜひご覧ください。みんなでこの地球を守る取り組みを始めましょう。

<https://plagomi.scout.or.jp/>



企業や団体とのタイアップによるコラボレーションバッジ

カブスカウト対象

“新チャレンジ章”

2018年から開始したカブスカウト対象の「新チャレンジ章」。これまでに延べ3,100隊37,000人のスカウトが取り組んでいます。今号では、2021年度に新たに提供したプログラムに挑戦したスカウトや指導者の声についてご紹介します。



愛知・名古屋第101団

サイバーセキュリティヒーロー



仮想（デジタル）と現実（リアル）が混ざり合う、今の子どもたちが主役となる社会がやってきます。これからの社会を生きるために必要な術を体験しましょう。

■ 展開例

- 道徳（高学年）の教科書から転用し、SNSだけではさまざまな感情が伝わらないことを伝えた。
- 警察官の保護者を講師にお迎えし、インターネットの基本情報や、ネットによる被害の事例などを聞きました。
- コロナ禍で活動休止中だったため、パロアルト王からの指令という形でスカウトあてに資料を郵送した。
- 紹集会ではコンピュータに関する本やネット社会に関わる本を借りて、中学校で実際に起きたスマホでのいじめ事件を事例に出し、自分が被害者だったらどう思うか、どうするかを考えてもらった。
- 学校で配付されているタブレット端末を使う上で、気をつけなければいけないことは何かをスカウトに質問しました。

サイバーセキュリティヒーロー宣言

- 親との約束を作ってしっかり守り、友だちにも教えてあげる。
- 電波でも人の心は傷つくよ。見えない相手ほど心が輝く言葉を文字で伝えよう！
- 知らない人とフレンドにならない、悪口を書かない。
- 「とりのからあげ*」をしっかり守りたい。
- コンピューターを安全に使用し、相手を傷つけないようにします。
- 初めてネットでメールを送りました。ドキドキしたけど面白かったです。

※ とりのからあげ：SNSの利用に伴う危険性について小さな子どもにも分かり易く伝えられるような語呂合わせの合言葉・標語を募集した鳥取県のコンテストで選ばれた標語です。

指導者の声

- 子どもたちならではの斬新な発想の発表を聞くことができ楽しかったです。また、トランプの数字あてゲームを通して、パスワードの重要性も学びました。
- まん延防止期間のためオンラインで実施しました。この新チャレンジ章とあわせてチャレンジ章のコンピュータ博士を取得することも目指しています。
- 10年後の世界についての子どもの発想が豊かで、未来が楽しみになりました。
- 思ったよりローマ字打ちやインターネットでの調べ方がスムーズでした。パソコン（スマートフォンなど）も日常に浸透しているのですね。

■ 本プログラムのオリジナル細目

10年後のコンピュータの世界に残っているもの、なくなるものを想像してもらいました。

残っているもの	なくなるもの
マウス/電子黒板/自動運転バス/ハードディスク(頭の中に埋め込まれる?) /お掃除ロボット/ IH ガス/動画配信/スマホ/グループ/パソコン/エアコン/ロボット 空飛ぶ車や空中公園ができるかも	鍵やシャッター(時間になると勝手にしまる)/マッチングアプリ(犯罪が多いから)/固定電話/FAX/掃除機/日めくりカレンダー/ストーブ/テレビ/扇風機

- 上記のようないろいろなアイデアがでたのち、「君たちの頭の中ある、あったらいいなと思うことは、君たちがカタチにして作っていくんだよ」と、講師がまとめてくれました。



茨城・取手第3団



愛知・名古屋第101団



今後の新たな情報やプログラムのお申込みは、日本連盟 Web サイトをご確認ください。

<https://www.scout.or.jp/member/challenge-badge/>

全国防災キャラバン



全国のイオンモール等で開催している全国防災キャラバンは、地域の子どもたちとその家族を対象に、防災について楽しく学ぶことを目指して、体験型のワークショップを実施しています。本キャラバンの開催は、「防災」という観点での地域社会への貢献に加えて、ボーイスカウト活動自体のPRの機会としても活用されています。

9月は防災月間であることから、各地での開催が本格化する時期です。防災プログラムのご紹介に加えて、効果的にスカウト活動をPRすることができるコツをお伝えいたします。

■ 今年度の開催予定

47都道府県・70会場以上での開催を予定しています。

各会場の一覧は日本連盟 Web サイトをご覧ください。開催日が決まった会場は順次反映していきます。

■ 各地で工夫して実施される防災プログラム

災害の種類や防災の考え方などは地域によってさまざまです。全国で活動しているボーイスカウトだからこそ、各県連盟の工夫によって地域性を考えた防災プログラムを実施していただいております。



■ 全国共通プログラム

各地で考えられた防災プログラムに加え、全国で共通して実施するプログラムもあります。

もしものときの「思いやり防災」

自分たちの住む町には多様な方々がいることを知り、思いやり、災害時に助け合うことを親子で考える機会となるプログラムを実施しています。災害時に困っている人のイラストが描かれたパネルをみて、自分ではどのようなお手伝いができるかを考えてみるプログラムや、手指の不自由さ、耳の聞こえにくさなどを体験するプログラムへの参加を通して参加する子どもたちは思いやりの心を育みます。

「わたしの未来・まちの未来」

日本連盟創立100周年である本年は、次の100年へのスタートの年でもあります。

自分たちが住む未来の街にはいったいどんな素敵なことがあるか、建物や乗り物、植物のかたちをしたシールに自分の思いを書いて街のマップに貼ってもらうことで、少しずつ素敵な街が完成していきます。

■ 運営のコツ

1. 参加者の年代に応じた内容に

イオンモールに保護者と一緒に買い物にくる子どもたちの年代は、未就学児から小学校低学年がほとんどです。年代に合わせた防災プログラムを実施し、会場での説明を工夫してみるとよいでしょう。

2. 参加者はボーイスカウトのことを「知らない」

ボーイスカウトに興味があって参加してくれるのではなく、買い物にきたら、たまたまやっていたイベントに参加したというケースがほとんどです。ボーイスカウトについて丁寧に説明し、興味を持ってくださる保護者には団や県連盟の連絡先をお渡しするなどして、ぜひ会員獲得の機会にしてください。県内の活動場所一覧をマップで用意している県連盟もあるようです。

※会場内で、参加者の方の個人情報（氏名や連絡先・住所）を取得することはお控えください。

3. 参加しやすい雰囲気作り

ボーイスカウトの制服を着た人がたくさんいると「関係者だけのイベント」と思われ、一般の方が参加しにくいという声をよく聞きます。

- あえて制服を着用しない、エリア内にいるスタッフは最低限にする。
- ボーイスカウトから、ローバースカウト年代を中心にブースを運営する。積極的な呼び込みも効果的です。

全国防災キャラバンの Web サイトはこちら

<https://www.scout.or.jp/member/bosai-caravan-2022/>



「体験活動推進元年」

—この機会を活かして！

■今年度は「体験活動推進元年」

令和4年2月に文部科学省が公表した「教育進化のための改革ビジョン」に基づき、子どもたちの「リアルな体験」機会の充実を全国規模で推進するため、6月に末松文部科学大臣（当時）が「子供の体験活動推進宣言」を発表されました。また、このような流れの中、末松大臣からは「令和4年度は体験活動推進元年とする」との提唱もありました。新型コロナウイルスの蔓延が長引くことによって、青少年の健全な発育・発達への影響、その懸念がより広がっている中、「リアルな体験」の機会を充実させることは、「行うことによって学ぶ」ボーイスカウトの使命である一方、運動としては、大きな追い風となるものです。



体験の風をおこそう



■「体験の風をおこそう」への参加で認知拡大を

独立行政法人国立青少年教育振興機構などが中心となって推し進めている「体験の風をおこそう」という取り組み (<https://taikennokaze.jp/>) に応じられた団も多いのではないのでしょうか。10月が「体験の風をおこそう」の推進月間です。

この取り組みに団体として登録することで、皆さんの団が行う事業のPRのチャンスが得られます。「体験の風をおこそう」Webサイトで事業を紹介できるほか、のぼり旗をいただけます。私たちの中にはすでに団や地区で登録されて活用されているところもあります。未登録の皆さんはぜひ利用してみてください。

■子どもの頃の「体験」の効果は

また、このページには体験活動の効果についても紹介されています。中には、「子どもの頃にままごとやヒーロー遊びをした経験と、大人になった今、電車やバスで席を譲ろうと思うかどうかの関係」など、興味深い調査結果も含まれています。

これらの内容などには私たちの普段の活動にも通じるものもあります。ボーイスカウト運動の効果を積極的にアピールするためにも使うことができるのではないのでしょうか。ぜひ、活用してみてください。

■令和4年はきっかけの年に

なお、今年が「体験活動推進元年」となっただけでなく、令和6年度までの3年間で「体験活動推進充填改革3か年」と位置づけられて、青少年の体験機会の増加を推し進めようとなりました。今年度だけでなく来年度以降もさらに、ボーイスカウト運動への参加の機会を地域の青少年により多く提供できるよう、工夫を凝らしていきましょう。

「体験の風をおこそう」Web サイト

<https://taikennokaze.jp/>



難民支援衣料 回収プロジェクト

2016年からユニクロとの協力により難民キャンプに衣料を届けるプロジェクトを実施しています。これまでに回収した衣料は10万着以上。その一部はルワンダやミャンマーなどに届けられています。今号では、難民の現状と本プロジェクトについてご紹介します。



—難民とは

1951年の「難民の地位に関する条約」では、「人種、宗教、国籍、政治的意見または特定の社会集団に属するなどの理由で、自国にいと迫害を受けるかあるいは迫害を受ける恐れがあるために他国に逃れた」人々と定義されています。UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）の調べでは、2021年末時点、紛争や迫害により故郷を追われた人の数は8,930万人に上るそうです。これは世界の78人に1人、全世界人口の1%にあたります。このうち41%は子どもです。

出典：国連 UNHCR 協会ホームページ
<https://www.japanforunhcr.org/refugee-facts/statistics>

—私たちボーイスカウトにできること

「難民」という国際的な問題に対して、スカウト一人ひとりができる支援があります。難民

■ 秋のキャンペーンを実施中

現在、秋季のキャンペーン期間中です。衣料を集めてユニクロの店舗にお持ち込みください。なお、プロジェクトに参加するためには事前に申し込みが必要です。

STEP 1 プロジェクトに申し込もう！

STEP 2 難民についてみんなで考えよう！

STEP 3 各団で洋服を集めよう！

STEP 4 集めた洋服をユニクロへ届けよう



三重・桑名第3団

回収対象

1 ユニクロ・ジーユーの着なくなった服

2 子ども服（60～150cm）に限り、ユニクロ・ジーユー以外のブランドも対象になります。

※ 期間・回収対象ともに、ボーイスカウトとユニクロの連携による特別ルールとなります。詳しくは、日本連盟Webサイトをご覧ください。 https://www.scout.or.jp/member/support_for_refugees/

■ 全国の活動内容をご紹介します！

京都連盟・京都第77団 / 今回は活動エリアの4学区の自治会連合会、小売店舗等、広範囲にPRを行い、回収を5月22日と29日の2日間にわたって行いました。大人服548着、子ども服1,841着の計2,389着の皆さまからの善意を受け取ることができました。その際には感謝の気持ちを込めた「手作りキーホルダー小枝ちゃん」をプレゼントし、スカウト活動のPRも兼ねることができました。

岐阜県連盟・多治見第1団 / 多治見第1団では、今年度も本プロジェクトに協力することになり、団内で連絡を回し、5月の総会と隊集会の際に衣料を回収。今年度は、カブスカウトに整理・梱包作業をお願いしました。隊長から、今ウクライナで起きていることを聞いて「もし、みんなが同じ立場で家も服も何もかもなくなってしまった時、服が届いたらどう感じる？」の問いかけに、スカウトは「服が届いたら嬉しい」と応えました。「みんなの着られなくなった服で難民を笑顔に変えられるんだよ」と聞いて、スカウトは丁寧に、心を込めて作業をしてくれました。

キャンプでは、特に子ども服が不足しており、皆さんが着られなくなった衣料を集めて送ることで大きな支援になります。春と秋にそれぞれキャンペーン期間を設けて難民支援プロジェクトを実施しています。団や学校など、地域

全体でご不要になった衣料を集めてユニクロにお送りください。

実施期間

春…3月1日～5月31日

秋…9月1日～10月31日

大和証券グループ120周年記念 こどもの未来プロジェクト

ボーイスカウトへの寄付金 贈呈式

大和証券グループが創業120周年を迎えたことを記念し、地域社会の感謝と、未来を担う子どもたちへの支援を目的に「大和証券グループ120周年記念 こどもの未来プロジェクト」を新設されました。子どもの貧困・格差を重要な社会

問題と捉え、全国各地の「子ども支援団体」への寄付を行う中で、ボーイスカウト日本連盟へ20万円のご寄付をいただきました。

この寄付金は、こどもたちの未来のため日本連盟の事業の中で活用されます。



大和証券グループ担当者(左)と大久保事務局長(右)

■ スカウトのための安心・安全講座

「そなえよつねに共済」とは？

“ボーイスカウト活動”中のケガを補償する仕組みとして、2013年に文部科学省より認可された「そなえよつねに共済」。この制度は、冒険的で魅力的なスカウト活動を確保するために欠かせないものです。

毎年11月には、翌年度の『そなえよつねに共済／賠償責任保険 手引き』が全国に届けられていますので、指導者の方々には既にご承知のとおりです。

今回は、「そなえよつねに共済」についての理解を深めていただくために、特徴や補償内容をあらためてご紹介します。

1. 「そなえよつねに共済」の主な特徴

- “ボーイスカウト活動”に基づく傷害事故を総合的に補償します。
- 通常の活動のほか、指導者が同行していない活動（例：班キャンプなど）や、ベンチャーの単独活動時、活動場所への往復時も補償の対象となります。
- 日本国内はもちろん、海外での“ボーイスカウト活動”中の事故も補償の対象です。

2. 事故が発生した時の対応について



事故発生

- ① 事故発生時の状況を詳しく記録しましょう／事故が起こったときは、本人はもちろん、周囲も動揺してしまいがちです。後から事故概要を報告する必要もありますので、写真やメモでできるだけ詳しく記録を残しておくことが大切です。
- ② 日本連盟 安心・安全制度推進室まで電話やメールで速やかに連絡しましょう／TEL: 03-5652-2945 E-mail: kyosai@scout.or.jp
- ③ 「事故発生状況受付簿」が送られるので、事故の報告をしましょう／報告の際、事前に準備した活動計画書及び参加者名簿が必要です。

3. 「そなえよつねに共済」の補償内容

補償項目	概要
死亡補償（死亡共済金）	“ボーイスカウト活動”中に、不慮の事故により死亡したとき
後遺障害補償（後遺障害共済金）	“ボーイスカウト活動”中に、不慮の事故により後遺障害を被ったとき
入院補償（入院共済金）	“ボーイスカウト活動”中に、不慮の事故により傷害を被り、入院したとき
手術補償（手術共済金）	“ボーイスカウト活動”中に、不慮の事故により傷害を被り、所定の手術を受けたとき
通院補償（通院共済金）	“ボーイスカウト活動”中に、不慮の事故により傷害を被り、通院または往診を受けたとき

4. 補償の対象とならない事例（一部）

- 被共済者の故意、または重大な過失によるもの
- 専用道具を用いた山岳登山、リュージュ等や航空機の操縦、スカイダイビング、ハングライダー、超軽量動力機やジャイロプレーンの搭乗、その他これらに類する危険な行動を行っている間に生じた事故
- 食中毒（細菌性、アレルギー性等の要因を問わない）

今夏は、ジャンボリーサマーを中心に活発なスカウト活動が行われましたが、久々の野外活動でマダニやハチ等による虫刺されも多く報告されています（8/22現在 全事故報告の25%）。スカウトのための「そなえよつねに共済」を活用しながら、楽しいボーイスカウト活動がより活発なものになるようご支援ください。

「そなえよつねに共済」のご質問やお問い合わせは、下記へお願いします。

✉ e-mail: kyosai@scout.or.jp

共済委員会

信仰奨励

隊長の話

真宗大谷派 町田 正照

集会の始まりやキャンプの朝、一日の始まりに皆さんはどんな話をされていますか。ボーイスカウト年代では、隊長とスカウトが直接に触れあえる機会はあまり多くないので、有効に活用していただきたいと思います。お話のテーマの一つとして、「ちかい」と「おきて」（年代によりやくそく）について、年代に合わせてお話をされておられると思います。その際には、信仰の話を含めていただくと、より効果的かと思っています。

「ちかい」は、自分自身に対して行うものですが、これは神や仏などの絶対者との関連を結びとスカウト自身が約束するということです。「ちかい」の前文は信頼されるスカウトとなるように「ちかい」の三条を実行すると約束しています。そのうちの一つについてみていきましょう。

一、神（仏）と国とに誠を尽くしおきてを守ります

私たちは、知らず知らずのうちに自分に都合の良いように物ごとを考え、自己の利益だけを追求してしまいがちです。しかし、自分自身は、家族や学校（職場）、そして近隣の方々に支えられ、そして、住んでいる地域や生まれ育った故郷の環境に育まれ生きています。ひとりでは生きていくのではないと思うとき、自分を含むすべての世界の幸せについて考えることができるのです。

私たちの宗派では、常に仏のお心を鏡とし、私を育てている地域と多くの人々への思いを忘れないようにしてスカウトの「おきて」を守るよう教えています。あらゆる人々を等しく包み込むという仏のお心に触れたとき、自身の心の狭さを知り、慈悲に満ちた世界の実現とすべての世界の幸せを願い、自らが果たすべきこと（「おきて」の実践）を理解し行動できるように目指していくのです。

ついスカウトたちに「ちかい」と「おきて」の実践が大切だと話してしまっていますが、絶対者（神や仏）との関係も含めお話しいただくと良いと思います。

「ちかい」と「おきて」は宗教や信仰に大きく結びついています。指導者の皆さんが明確な信仰をもち、研鑽されることを願っております。

日本連盟創立100周年 記念事業



ボーイスカウト日本連盟創立100周年記念募金に
ご寄付をいただいた方

1922 - 2022

<p>【北海道】 樽本 賢首 相澤 真一 小寺 克彦 【青森】 三浦 雅人 和田 有平 葛西 俊人 相馬 雅之 柳谷 良照 【宮城】 松岡 大介 三枝 慎 日下 清 菅野 五郎 荒井 嘉光 高山 雅光 和田 剛和 加藤 光厳 (株)環境管理センター 【秋田】 山田 真 山本 高敬 大滝 繁和 吉田 司 【山形】 大江 恵子 松田 隆仁 菅野 克彦 大江 裕樹 【福島】 関口 榮幸 沖井 智子 大関 宏之 【茨城】 戸舘 善敬 若林 新一 【栃木】 石川 秀忠 【群馬】 小堀 剛 新井 章信 大川 由明 【埼玉】 黒澤 岳博 小原 茂 村山 至 石井 正人 木村 照男 木村 順子 那須 廣久 浅見 弘明 鈴木 俊明 弓手 良行 一之瀬 真弥 落合 宏行 大浦 秀樹 星谷 光市郎 高橋 健一</p>	<p>菊池 博之 長嶋 亮 BS埼玉県連盟 奥武蔵地区 【千葉】 織田 一雄 鈴木 奨 児島 伸一郎 奥貫 誠 高橋 一彦 神谷 義文 山田 龍雄 青木 勇 遠藤 一馬 鈴木 國夫 佐竹 豊 片寄 朗 花田 健二 高橋 喜一 吉田 耕一 田中 秀近 高橋 雅彦 細谷 昌敬 大作 寛 浅野 文生 【神奈川】 武田 幹緒 菅原 信浩 小畑 修平 窪田 豊夫 窪田 雄一 窪田 肇 太田 利子 渡部 公 西村 哲夫 仲戸川 勲 前田 幸 井上 延義 佐野 友保 竹内 和夫 中鶴 英昭 鈴木 令子 田中 勝 前島 正彰 柳下 裕明 原 清一郎 高橋 一夫 吉川 純 中川 和之 安部 秀 吉原 滋彌 松蔭 弘一 伊藤 郁夫 森下 賢人 生嶋 光則 松崎 久義 中川 修一</p>	<p>三宝商事(株) 【山梨】 中村 忍 河野 潤 【東京】 五十野 和男 木村 公一 久保田 康弘 横山 和久 笠原 功 向田 吉彦 長谷川 豪 横田 武憲 小林 和彦 川村 健司 柳 茂久 村山 正 宇津木 太 石井 琢磨 小暮 幹雄 福嶋 正己 田中 隆 平野 健治 古谷 真一郎 深川 幹祐 神田 幸博 漆原 文一 菊池 悠機 中澤 征身 木島 敬夫 熊坂 博幸 井沢 啓一 小池 政利 平塚 吉直 山本 慎太郎 萩原 泰夫 佐藤 成 松平 頼昌 花岡 真子 日比野 幸男 宮下 慎一 山口 英一 杉原 正 井沢 京太郎 原田 海渡 小林 幸司 松本 秀夫 相田 力 松本 康夫 谷道 龍彦 三代川 薫 菊地 薫 貝津 晴信 下川 哲男 外田 健介 志賀 宏昭 唐澤 弘至 大吉 淳一</p>	<p>只野 太一 村山 大介 小林 司 小松 光央 清水 正充 吉田 勝比古 谷茂岡 泰 岩崎 泰次郎 猪瀬 史温 飯田 源太郎 小林 勝也 上森 俊治 福田 豊 齋藤 淳二 鈴木 俊憲 B S 杉並3 東京江戸川 ロータリークラブ (株)アキヤマ 【新潟】 大関 ゆかり 隆之 宇野 龍一 【富山】 長守 崇 河合 常晴 【石川】 池田 壽男 【福井】 酒井 一成 酒井 千佳子 富田 尚人 水中 静以智 羽木 秀樹 藪内 正夫 神戸 千里 赤崎 好治 【長野】 浩司 花岡 誠 藤川 育宏 浅井 洋一 武田 清孝 竹元 孝志 【岐阜】 広瀬 之彦 広瀬 千恵 中嶋 広志 銘 功 虫賀 友則 安田 勝 【静岡】 丸山 浩孝 大川 靖夫 川村 悦子 戸田 正明 花畑 金亨 鈴木 孝治 川島 泰彦 瀧島 三郎</p>	<p>志賀 裕人 村松 武博 久原 宗仁 上條 猛 栗田 裕之 太田 和成 金原 節子 【愛知】 水谷 優介 根 浩路 近藤 博 大谷 俊宏 中村 耕治 生田 亮俊 吉野 博樹 森 裕次 永井 淳 加藤 忠雄 息野 捷夫 石坂 純一 郷村 朋明 河村 武人 小茂田 岳広 中村 友一 富田 昭則 中村 里美 谷澤 季也 園原 大史 前山 秀興 渡辺 茂人 鷓鴣 明宏 三浦 聡 瀧 克己 鈴木 勝 中村 慶三 本多 祐樹 池戸 伸隆 北川 菜穂子 坂田 明隆 竹内 正純 佐藤 孝 (株)林 證 寺 新東工業(株) 巴運 輸(株) 【三重】 服部 久司 山本 幹 清水 一利 生田 元典 【滋賀】 大塚 潔 岡 宗夫 渡邊 英子 尾岡 孝之 嶋田 寛 田田 徹 【京都】 猪岡 敏一 井上 義雄</p>	<p>福原 洋 黄 思淞 高橋 一郎 清水 博 辻野 正通 山本 泰正 B S 京都91 浄土真宗本願寺派 スカウト指導者会 【兵庫】 枝根 秀男 藤原 健資 藤川 晴代 苦瓜 一夫 佐藤 光弘 松井 重雄 中山 基 木下 弘 清水 秀彦 笠原 章雄 山田 知輝 中島 佳和也 富永 和也 谷垣 憲滋郎 下門 篤弘 林田 平八郎 高木 敬三 牛塚 育雄 後藤 良二 南 陽一 杉本 光俊 田路 直也 池田 純雄 射延 敏昭 志茂 邦彦 小森 昌子 三本木 文武 辻本 誠 與賀田 光嗣 飯田 洋志 糟谷 晃弘 重井 宣行 三木 美眞子 三木 千穂里 桑 英人 西井 秀行 築山 佳永 小谷 重男 能登 祐一郎 南 秀生 松島 弘明 岡村 勝志 芦田 賀津美 北川 泰寿 稲田 昭 市田 久人 武藤 伸太 竹尾 智枝</p>	<p>古里 禎章 正願 大輔 黒田 茂 B S 神戸39 【奈良】 城戸 琢磨 西岡 一也 智原 正志 本間 隆 諸熊 建次 吉田 前一 池島 勉 B S 北葛城1 サンディスト(株) 【岡山】 松岡 脩平 荻野 昭裕 平谷 哲司 谷口 好忠 辻 節子 向井 良和 【大阪】 川口 義之 上阪 功 川瀬 政美 利齋 俊彦 萩原 了二 間野 智之 谷田 吉弘 井上 菊信 福室 忠正 川端 和廣 辻 資浩 井口 雅公 榎本 壮一 小川 健一郎 松田 廣志 瀨瀨 康匡 間下 正可 丸谷 登 片山 和俊 佐藤 嘉昭 久保田 太郎 川勝 賢一 横山 稔 奥田 常夫 高見 篤志郎 北村 英治 永瀬 光章 四宮 政利 宮本 智喜 久徳 一志 則次 亮介 谷口 修 BS堺25 林田道興 大阪スカウトクラブ 協和化工(株)</p>	<p>【鳥取】 鳥飼 敏博 坪倉 顕示 福田 京子 田村 幹夫 浦島 勉 堀部 晴彦 高嶋 壮司 森脇 昇 香川 敬生 山岸 正明 【島根】 石田 雅士 安來 潔史 中澤 梧郎 【岡山】 山田 貞秀 松田 久 横山 卓生 脇本 富治 平井 清志 光畑 俊行 伊藤 大貴 幡山 寛念 両備ホール ディングス(株) 中国銀行 いけべ医院 【広島】 吉川 泰正 山崎 壽之 難波 壽則 森島 達暁 橋本 正彦 小鷹狩 正八 【山口】 高村 義則 【徳島】 石本 康樹 久保 雅史 【香川】 松平 頼武 藤田 五郎 菅原 良弘 秋山 彰 【愛媛】 高田 政則 鳥越 千右 B S 松山16 【高知】 山岡 義和 東條 美紀 青木 浩 BS高知県連盟 【福岡】 宇都 宇宙 坂本 宣由 阿部 寛幸 井手 直秀</p>	<p>行武 孝人 清原 勝行 武井 宏 辻 浩一 白濁 琴江 武井 靖行 坂口 亮二 福岡中央労務 管理事務所 竹下降志 【佐賀】 馬場 久和 原口 誠 廣納 章 【熊本】 濱田 智海 多田 浩一 深田 俊郎 【大分】 戸高 有基 村邊 晴美 業師寺 建行 古手川 正治 古手川 保正 佐藤 公一 (株)緩和会ペイン クリニック内科 いけべ医院 【西瀧海連(株)】 徳協工業(株) 大分海連(株) 【宮崎】 村川 保訓 豊秀 昌彦 【鹿児島】 諸留 貴久 【沖縄】 城間 剛 宮里 博史 【日本】 HARVEY PAUL A.S. 鶴岡 侑真 洪 羽奇 タナカ ヨウイチ 藤田 喜久子 枝村 浩平 田中 斉 (株)拓殖大学 (公助)戸高育英会 住友化学(株)</p>
--	---	--	--	---	--	---	---	---

※ 7月中旬までにご寄付いただいた方のお名前を、県連盟順に記載しております。それ以降にご寄付いただいた方につきましては、次号以降で順次、ご紹介いたします。

維持会員 (敬称略)

スカウト運動を財政面からご支援いただいている個人・法人会員の方々です。

ご支援ありがとうございます

2022年5~6月度

【秋田】	中川 和久	宮下 慎一	高橋 正行	南 秀生	糟谷 晃弘	加藤 正巳	【和歌山】	辻 浩一
佐川 芳子	高橋 一彦	三谷 清	石坂 純一	伊野 操治	諸戸 純治	桑 英人	中村 光太郎	坂口 亮二
【群馬】	諸町 正男	枝迫 雄大	吉野 博樹	堤 正	伊木 紀世子	高田 真志	【大阪】	【佐賀】
奈良橋 俊宏	【神奈川】	【新潟】	B S 春日井 8	荒川 清治	碓永 正昭	中野 まり	高見 篤志郎	廣納 章
碓井 健文	坂本 健	【静岡】	根木クリニック	有末 幸弘	榎本 佳嗣	田中 昭	植田 元気	【長崎】
大川 由明	原 清一郎	【京都】	根木 浩路	南平 榮一	谷垣 憲滋郎	宮井 達也	川瀬 政美	藤田 孝
【埼玉】	前田 幸	【兵庫】	【三重】	長 八洲翁	宮田 委宏	今津 章	原田 勝次	【宮崎】
吉野 一男	【東京】	山田 知輝	猿田 彦神社	中村 謙二	下岡 光治	細川 和彦	【愛媛】	武末 雄二
金重 一夫	田中 隆	川勝 賢一	柏森 隆平	平池 邦夫	笠原 章雄	井口 展明	【鳥取】	【鹿児島】
板谷 喜代子	岡村 貴	喜多 敬	【兵庫】	池田 好信	小玉 一夫	長 延行	高嶋 壯司	森永 高行
村山 至	額谷 征幸	三木 美真子	飯田 洋志	飯田 洋志	喜多村 憲一	植田 武	【徳島】	【日本】
B S 上尾 9	石黒 秀彦	苦瓜 一夫	名越 亮	後藤 良二	瀧川 高章	木下 弘	池田 勝美	脇本 雄吾
【千葉】	上森 俊治	日下 孝明	後藤 聖一	齋藤 聖一	藤原 健資	北 久治	【愛媛】	増子 恵二
織田 一雄	諏訪 維理	山田 明良	辻本 誠	辻本 誠	植田 和彦	西 和彦	龍田 純孝	山口 仁司
			岡田 十一	岡田 十一	進藤 勝人	蒲生 敏宏	堀田 利知	
			岡本 浩	岡本 浩	枝根 秀男	【奈良】	えひめスカウトクラブ	
			林田 平八郎	林田 平八郎	阪口 寿紀	諸熊 建次	【福岡】	
					三木 千穂里		阿津坂 秀人	



マンスリーサポート維持会員

毎月1,000円から、クレジットカードでの自動引き落としによる維持会費のお支払いが可能です。

<https://www.scout.or.jp/support/04/>

5~6月に入会または1年継続された方々です。

【北海道】	下條 俊太郎	【山形】	太田 浩	【千葉】	児玉 春美	【愛知】	澤 朋宏	【兵庫】	山本 浩介	【鳥取】	中尾 圭介
【岩手】	小守林 靖一	【栃木】	齋藤 明美	光延 健秀	【東京】	星月 一人	小林 弘幸	【奈良】	佐藤 之雄	【岡山】	平井 清志
【宮城】	高山 雅光	【群馬】	小茂田 岳広	【岐阜】	矢橋 和秀	【京都】	井上 義雄	【大阪】	水戸守 雅之	【日本】	小守林 靖一
【秋田】	吉田 司	【埼玉】	高橋 義人								

SCOUTING

デジタル配信しています！

機関誌『スカウティング』のデジタル版 (PDF) を、読者の皆さんを対象に配信しています。デジタル版は、文字もそのままコピーできますので、さまざまな資料に、より簡単に引用できるほか、タブレット端末などに入れ、いつでも読むことができます。ぜひご利用ください。

通常は ID と PASS を入力していただいておりますが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う活動への臨時措置としてパスワードを解除しています。ぜひスカウトや保護者の皆さまにもご案内ください。自宅におけるスカウト活動などにもお役にいただければ幸いです。

URL: <https://www.scout.or.jp/scoutingmagazine/issue/>



SCOUTING

次号予告 次号の『スカウティング』は、2022年11月1日発行

特集

躍動する若い力

ベンチャー・ローバー年代など、今後のスカウティングを担う世代の活動を紹介する他、指導者の養成に関する最新情報の掲載を予定しています。

なんでも投稿先

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟事務局『スカウティング』投稿係

〒167-0022 東京都杉並区下井草4-4-3 電話 03-6913-6262 (代表) FAX 03-6913-6263 Eメール scouting@scout.or.jp

投稿規定 / 本誌では読者の皆さまからの投稿を常時受け付けています。投稿が掲載された方には、掲載誌と記念品をお送りしています。投稿は、文字数400字で写真3枚を目安にしてください。新聞掲載記事は、新聞名、掲載日を明記してください。なお、お送りいただいた写真や新聞記事は原則として返却しませんのでご了承ください。お送りいただいた投稿は、抜粋しての使用や一部を編集させていただく場合があり、また掲載できない場合もあります。あらかじめご了承ください。たくさんの投稿をお待ちしております。

日本連盟 Web サイト <https://www.scout.or.jp>

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟 『スカウティング』2022年9月号 No.751 令和4年9月20日発行

発行 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟 〒167-0022 東京都杉並区下井草4-4-3

『スカウティング』は、全国のボーイスカウト指導者 (隊指導者、団委員、スカウトクラブ構成員、地区・県連盟・日本連盟役員) に1冊お送りしています。加盟登録住所にお送りしますので、住所の誤り、変更がある場合は団での登録住所変更の手続きをお願いします。登録システムに伴い、①4月~8月に新規、追加登録申請が承認された場合: 5月号から当該月号を同封にて送付 (例: 8月承認の場合は9月号に5月号、7月号を同封) ②9月~翌年3月に登録申請が承認された場合: 11月号から当該月号を同封にて送付。9月以降の「追加登録」で、5月号~9月号をご希望の場合は、日本連盟事務局「スカウティング」担当にご相談ください。バックナンバーの在庫がある場合はお送りいたします。発行月の前月10日以降は、送付作業工程に間に合わないため、当該月号は次号に同封されます。なお本誌の購読料は、登録料に含まれています。上記以外にも別途購読いただくことが可能です。詳しくは日本連盟 Web サイト <https://www.scout.or.jp> から、スカウティング誌のページをご覧ください。

©公益財団法人ボーイスカウト日本連盟 2022 / 写真、イラスト、記事のコピー・複製・転載を希望される場合は、日本連盟事務局広報担当 (代表 TEL: 03-6913-6262) までご連絡ください。

SCOUTING 2022/9 751

スカウトイング

発行 公益財団法人ホーイスカウト日本連盟
〒167-0022 東京都杉並区下井草4-4-3
電話 03 (6913) 6262 (代)

定価 ¥200 (税込)
郵便振替 00130-1-66119
口座名義 公益財団法人ホーイスカウト日本連盟



18th NIPPON SCOUT JAMBOREE



ALL OVER JAPAN

Canon



paloalto NETWORKS

健康にアイデアを

meiji

Yakult

ゴールドスポンサー

アイコム株式会社 / TSP 太陽株式会社 / 株式会社フルノシステムズ / 株式会社ヨコイ / ローランド株式会社

オフィシャルサプライヤー